

鳥居

と一1

神社などにおいて神域と人間の住む俗界とを区画するもの（結界）で、神域への入り口を示すもの。一種の門。

1. 概要

- 鳥居を建てる風習は神社の建物がつくられるようになる前から存在した。
- 古来日本では、屋根のない門ということで鳥居のことを「於上不葺御門」（うえふかずのみかど）とも言った。
- 建てられている場所は、神社のほかに仏教寺院（神仏習合）や御陵に建てられている。
- 鳥居をもたず楼門（隨身門）をもつ神社もある。
- 数え方 = 一基、二基・・・。
呼び方 = （本殿から遠い順に）一の鳥居、二の鳥居・・・。
- 色 = 赤いのは、古来赤色が生命の躍動をあらわし、災いを防ぐとして神殿などに用いられたことが影響しているとされる。

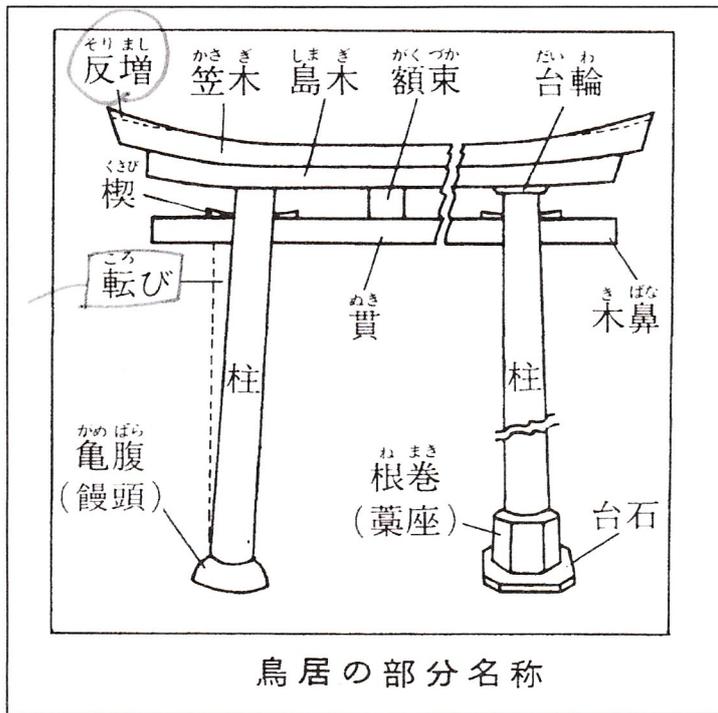
2. 起源（諸説あり）

- 単に木と木を縄で結んだものが鳥居の起源と考えられている。
- 8世紀ごろに現在の形が確立している。

3. 語源（諸説あり）

- 鳥の止まり木を意味する「鶏居」説。
- 「止まり木」（あるいは「神前止まり木」）説。
- 「とおりにる」（通り入る）が転じたとする説。
- 建築用語で、高欄の横木の最上部を「鳥居桁」と呼ぶことからきたという説。
（障子の上桁の横木を鴨居と呼ぶのと同様に）

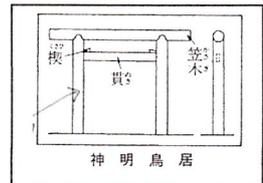
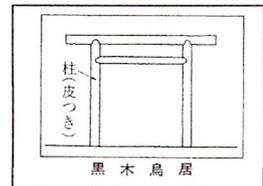
4. 鳥居の部分名称



5. 構造・形状

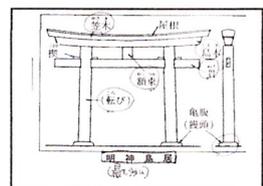
① 神明鳥居 (原型は黒木鳥居)

- 鳥居の原型は皮付き丸太の自然木で造られた「黒木鳥居」。
黒木鳥居から多くの形式が発達した。
- 黒木鳥居の用材を、皮を剥いで形をととのえる加工をして用いたのが「神明鳥居」(分類としては、黒木鳥居は神明鳥居に含まれる)
- 特徴
 - イ. 柱は円柱・直立・掘建て。
 - ロ. 貫は角材で柱の外には通さない。
 - ハ. 笠木は丸太で切り口は垂直。
 - ニ. 島木がない
- 例・・・京都・野宮神社 (黒木鳥居)、靖国神社大鳥居。



② 明神鳥居

- 最も数の多い鳥居。
- 笠木を2層とし、下層に島木を渡す。



●特徴

- イ. 柱の上部が内側に傾斜する（「転び」という）。
- ロ. 柱は台石（礎盤・亀腹・饅頭などともいう）の上に立つ。
- ハ. 貫は柱を通し、その切り口は垂直。
- ニ. 貫の中央に額束（がくそく）を載せる。
- ホ. 貫に楔をつける。
- ヘ. 島木、笠木は反っており、切り口は斜角。

●材料

- イ. 木材（檜・杉など）で作られた「木鳥居」。
- ロ. 石で造られた「石鳥居」。
- ニ. 銅板で全体を葺いた「銅鳥居・金鳥居」（かなどりい）。
- ホ. その他、鉄筋コンクリート製、鉄パイプ製、近年は塩ビ製、ジュラルミン製など。

6. 著名な鳥居

①日本の三鳥居

●吉野・銅の鳥居（かねのとりい）（重文）。

金峯山寺・蔵王堂の参道に建つ。室町時代のものと伝える。高さ8メートル。

●安芸の宮島・朱丹の大鳥居（木造）（重文、世界遺産）。

厳島神社・社殿前の海中に建つ。楠造り両部鳥居。

現在の鳥居は平安時代から数えて8代目で明治8年（1875年）7月に完成したものの。

●大阪四天王寺・石の鳥居（重文）

永仁2年（1294年）に造られた日本最古の石造りの大鳥居の一つとされている。



銅（かね）の鳥居



安芸の宮島



四天王寺・石の鳥居

②日本3大石鳥居

●日光東照宮（重文）・・・黒田長政による寄進。

●八坂神社（重文）・・・南楼門前の鳥居。

●鶴岡八幡宮（重文）・・・一の鳥居 若宮大路の南側の鳥居。

③京都三珍鳥居

- 木嶋坐天照御魂神社 三柱鳥居。
- 巖島神社（京都市上京区）京都御苑内の唐破風石鳥居。
- 北野天満宮境内社 伴氏社の石鳥居。

④その他

- 熊野本宮大社・・・高さ 33.9 メートルで日本最大。
- 伏見稻荷大社・・・鳥居の数、約 1 万基。
- 平安神宮・・・・・・高さ 24.4 メートル。
- 気比神宮・・・・・・国の重要文化財。木造としては高さで日本 3 番目。
- 山形市元木の石鳥居・・・平安時代建立の日本最古の石鳥居。（重文。）
- 野宮神社・・・・・・樹皮がついたままの「黒木鳥居」。古代の鳥居の形式を伝えている。
- 栗嶋神社（宇土市）・・・日本一小さな鳥居といわれる「腰延べ鳥居」。これをくぐると
婦人病を初めとするさまざまな病が平癒するといわれる。
- 陶山神社（有田町）・・・・明治 21 年（1888 年）奉納の磁器製。
- 山王神社（長崎市）・・・二の鳥居は原爆の爆風により片方の柱が吹き飛び「一本柱鳥居」と呼ばれる。

鳥居の分類

